



三種町

議会だより

平成29年
2月1日 発行

第44号



寒さなんかには負けないぞ!!

(1/13 森岳保育園にて)

発行：三種町議会

編集：議会広報編集特別委員会

〒018-2401 秋田県山本郡三種町鶴川字岩谷子8番地

TEL(0185)85-4831 FAX(0185)85-2178

URL <http://www.town.mitane.akita.jp/>

も く じ

議長年頭所感	2
補正予算の内容	3
議案審議、議案一覧	4～5
一般質問(6人が登壇)	6～11
請願・陳情・研修報告	12
所管事務調査報告	13
町民と議会との懇談会報告	14～18
お知らせ・訃報	18

年頭所感



町民の皆様には、健康で希望に満ちた初春を迎えられましたことをお喜び申し上げます。

また、日頃より、町政の発展と議会運営に対しご理解とご協力をいただき深く感謝を申し上げます。

さて、町民生活の安定と福祉の向上を図るため、人口減少社会への対応があらゆる分野にわたって求められ、行政への期待はますます大きくなってまいります。

町は「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、住民生活環境施設整備、雇用対策推進事業の継続、産業振興対策、暮らしの安心確保対策の4分野を重点事業と位置づけ動きだしております。

それぞれの立場において創意工夫をこら

し、知恵を出し合いながら、しっかりと取り組む必要があると思います。

議会のあり方についても、議会改革、議会活性化は常に課題であり、その役割と責任の重さを自覚し今後の議会のあり方について研鑽を深める年にしたいと考えております。

新年を契機に、議員一同、心を新たにしたい、町民の皆様の付託とご期待に添うべく、魅力あるまちづくりの実現をめざして努力してまいります。

町民の皆様は、なお一層のご活躍とご健康を、そして合併10年を経て「とり」のようにはばたく三種町となりますよう、ご祈念いたしました年頭のあいさつといたします。

三種町議会議長 金子芳継



本年もよろしく
お願い申し上げます

三種町議会

議長 金子芳継
副議長 加藤彦次郎
議員 大澤和雄
宮田幹保

安藤賢藏
三浦敦
清水欣也
工藤秀明
高橋満
鈴木一幸
小澤高道
成田光一
後藤崇美子
堺谷直樹
伊藤千作
平賀真
児玉信長

(議席順)

災害復旧に1億6千万円

平成28年12月定例会
補正予算の内容

会 計 名	補正前の予算総額	補 正 額	補正後の予算総額
一 般 会 計	109億4,891万7千円	3億9,880万7千円	113億4,772万4千円
特 別 会 計	65億5,016万2千円	△ 76万6千円	65億4,939万6千円
水道事業会計	5億6,053万 円	△ 1,967万6千円	5億4,085万4千円

【主な歳出】

事 業 内 容	事 業 費	財 源	
		特 定	一 般
自治体情報システム強靱性向上事業	561万6千円		561万6千円
ふるさと納税謝礼	871万 円		871万 円
更生医療給付費・障害児給付費等	390万6千円	157万5千円	233万1千円
養護老人ホームやまもと措置費負担金	160万 円	20万7千円	139万3千円
臨時福祉給付金（経済対策分）	7,062万6千円	7,062万6千円	
施設型・地域型保育給付費等	2,583万1千円	1,893万5千円	689万6千円
農業経営発展加速化支援事業費補助金	227万9千円	195万5千円	32万4千円
農業経営力向上支援事業費補助金	40万 円	40万 円	
県営ほ場整備事業負担金（芦崎地区）	1,350万 円	1,500万 円	△ 150万 円
地方創生推進交付金事業（マーケティング委託業務ほか）	770万 円	350万 円	420万 円
スポーツ・文化合宿等誘致推進事業補助金	4,200万 円		4,200万 円
道路維持業務（除雪関係経費）	8,398万4千円		8,398万4千円
災害復旧費（農地災害等）	1億4,956万4千円	9,852万 円	5,104万4千円
災害復旧費（林道災害等）	1,340万9千円	968万9千円	372万 円
山本公民館・山本総合支所建設基本計画作成業務	37万8千円		37万8千円

〈地方創生推進交付金〉

問 地方創生推進交付金事業とは、
どういった事業か。

答 年度当初から実施している地方
創生加速化交付金事業の補完
的・補強的な取り組みを行う事業で
ある。

問 地方創生交付金事業は、議会の
関与等が整備されていることが
条件となっているが、何をもちつて関
与しているのか。

答 この事業は、議会に報告し提言
等いただいた上で策定した「総
合戦略」に基づき実施しているもの
である。

問 12月8日に地方創生推進交付金
の概要説明がされたが、これを
もちつて関与があるとするのはどう
か。

答 この事業は、「総合戦略」に則つ
て事業展開しているものである
から、すでに議会の関与はあったも
のと考える。個別の実施事業につい
ては、時間的制約等から、予算計上
の際の提案となるものである。

問 地方創生推進交付金は、国の補
助が事業費の2分の1（上限
350万円）であるのに、770万

円予算計上している理由は。

答 事務事業の実施時において、個
別の事業が補助対象外となつて
しまう場合も考慮に入れ、1割ほど
多めに予算計上している。

問 この事業の実施主体となる地域
会社である「NPO法人ぶる
ん」について、資料を出すなど説明
はしないのか。

答 登記した事項等、必要な資料に
ついては、調整した上で後程報
告する。



3月から地域会社が活動するふるさと資源情報センター

〈山本公民館・山本総合支所建設基
本計画作成業務〉

問 業務の内容は。

答 敷地面積や建物の配置、構造、
規模、所要面積の確認による方
針の策定、配置図や平面図、立面図
による計画の作成、建築や電気、機
械関係の概算工事の検討を行うもの
である。

問 基本計画の予算を37万8000
円増額し100万9000円と
しているが、建物は当初の予定より
大きくなるのか。

答 支所機能も入るので、もう一度
検討するということである。

問 基本計画はいつ完成するのか。

答 今年度内の完成予定である。

問 基本計画は議会に報告するの
か。

答 完成後に報告する。



建替えが検討されている山本公民館

※議長は採決に加わりません。

推薦	平成28年度予算の補正等									
人権擁護委員候補者	人権擁護委員候補者	水道事業会計	衛生処理事業特別会計	介護保険事業勘定特別会計	農業集落排水事業特別会計	公共下水道事業特別会計	後期高齢者医療特別会計	国民健康保険事業勘定特別会計	一般会計	農業集落排水事業特別会計への繰入
17	17	17	17	17	17	17	17	17	16	17
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
決定	決定	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決

森岳温泉元気対策に調査費計上と研究チームの配置を

町長 大変有意義な提言であり、前向きに検討する



清水 欣也 議員

清水

森岳温泉は、非常に寂しい状況にある。

町はもはや森岳温泉の現状と将来に見切りをつけているのではないかと、「森岳温泉には、これ以上の投資効果が期待できないから、今後の対策の必要性はない。」町はそのような判断をしているように見える。

それとも、森岳温泉の活性化のための取り組みは、依然として必要と考えているのか。その認識を伺いたい。

町長

森岳温泉の活性化に特効薬的な方策が見いだせない状況にあったため、町の人口減少と経済発展対策である総合戦略の中に、森岳温泉の活性化対策を盛り込めなかった。

しかし、戦略の中に「観光資源の活性化支援」とい

う基本項目を設けているので、そのことで森岳温泉の活性化ということは念頭にあると理解していただきたい。

なお、クアオルト事業は、本来森岳温泉の活性化をねらいとしたもので、その目的に沿って石倉山コースなどの周辺整備をしており、クアオルトから森岳温泉の活性化という目的が欠落したということはない。

清水

森岳温泉の活性化のために、誰かが何かをするのを待つのではなく、まず、町が活性化構想を描くとともに、活性化に取り組む企業・団体等に対する支援の仕組みを作ることが必要である。

その上で、民間の発想や事業の掘り起こしに町が積極的に関与するということができれば、この地域で、民間企業が活性化プランやプロジェクトを立ち上げるというのは極めて難しいと思うが、どう考えるか。

町長

町の関与という点で、クアオルトの活用による森岳温泉の活性化という方向を想定していた。森岳温泉魅力づくり推進委員会を設立し、クアオルト事業による活性化計画の策定、先進地視察等を行ったものの、残念ながら継続的な活動には至っていない。

また、民間の発想や事業の掘り起こしについては、「町長への提言」や「元気づくり支援事業」を積極的に推進することで、森岳温泉の活性化に取り組む人材

を育成・支援していきたい。

清水

今後、森岳温泉の活性化をねらいとした周辺開発をトータルで進めるための研究に取り組むことにしてはどうか。

また、研究に取り組む町の姿勢を明確にするためにも、町の予算に調査費を計上するとともに研究チームを置いてはどうか。

町長

大変有意義な提案なので、前向きに検討したい。



森岳温泉郷

災害時における消防団への対応は

町長 水防計画に基づき対応している



後藤栄美子 議員

町長 ①町の対応として、三種町水防計画に基づき、水防管理者である町長が三種町消防団へ通報する。
そして、町から指示を受けた三種町消防団長は、副

後藤 10月8日の豪雨災害に関連して、4つの質問をする。
①消防団にはどのような状況のときに出勤を要請するのか。また、要請する消防団は、被災地域の消防団だけなのか。
②避難勧告は、町と消防署のどちらが発令するのか。
③三種川は被害が大きかったが、他の河川の被害はどうか。
④鵜川川は現在、流砂などの堆積土砂の影響で川幅も狭くなり、流れが阻害されている。浚渫できないのか。

団長や支団長、それから被災担当地区の地元分団長に順次連絡することになっている。
②避難勧告は、具体的かつ客観的な発令基準を定めた三種町避難勧告等の判断・伝達マニュアルに基づき、町長が発令する。
③三種川以外では、鵜川川上流で、外岡地区の護岸の一部が決壊している。
④鵜川川は2級河川であるため、県の管理河川となっている。そのため、山本地区振興局建設部に確認したところ、昨年要望があったため、水面より上の部分だけ除去したとのことだった。



川幅が狭くなった鵜川川



堤防の管理は適切か

後藤 鵜川川には、鵜川、富岡の八竜第2分団員が数名来ただけであった。三種川が氾濫すれば、鵜川川も一緒に氾濫するのに対応する消防団が少ないように思われる。

町民生活課長 災害の規模によって、出勤を要請する支団、分団等が変わってくる。

後藤 川尻地区の橋から上流は、堤防と家の境がわからないくらい木々が生えている。平成25年の大洪水のときは、床上浸水があったと聞いている。町では堤防の管理状況を確認しているか。
建設課長 県で管理する河川であるため、県へ確認する。

避難指示の発令の検証、土砂災害危険地域の未然防止対策は

町長 避難指示は空振りを恐れず発令する 土砂災害防止策は非常に困難、早めの避難を促す



平賀 真 議員



牛沢地区の土砂災害

平賀 避難指示が発令され、対象者3070人のうち、実際に避難したのは91人であった。今後発令区域の細分化を検討してはどうか。河川以外にも排水路が氾濫している箇所が多数あるが、今後の対策はどのようなになっているのか。牛沢地区では土砂が流入

し、家屋倒壊の危険もあった。町内には土砂災害危険地域が多数あるが、防災対策は進められているのか。

町長 今回の避難指示の発令は、三種町避難勧告等の判断・伝達マニュアルに基づき行った。

避難勧告等は空振りを恐れず早めに出すことを基本的にしているが、住民が適時に的確な判断・行動ができるような情報を提供している。

避難行動は地域によって温度差があるため、自治会長会議及び町広報等を活用

しながら知識と情報の周知徹底を図っていく。氾濫排水路は、氾濫の原因が異なっていたり、他団体の管理になっていたりするため、改修できていないのが現状である。

土砂災害に対しては、地滑り災害危険個所が4カ所、急傾斜地崩壊危険個所が22カ所、土砂災害警戒区域及び特別警戒区域が28カ

所もあるため、あらかじめ災害防止策を施すことは非常に困難である。当面は、住家のある危険地区には警戒避難雨量を参考にしながら、早めの避難を促していく。

今後、避難指示の発令区域、放送状況等検討していく。

町民生活課長 今後、避難指示の発令

長年放置されている空き家の庭木等への対策は

町長 町は法律上の根拠がなく、実施できない

平賀 危険な空き家に対しては対策が取られているが、所有者が不明であったり、庭木や雑草が伸び放題となっていたり、衛生上の問題や落雪等で近隣住民に被害を及ぼしている場合、何らかの対策が必要ではないか。

町長 空き家の庭木については、所有者に文書

を質問しました。

で処置勧告しているが、処置命令や持ち主に代わって処理することは、法律上の根拠がなく、実施できない。

町民生活課長 空き家の庭木が伸び過ぎて危険であるとの情報は寄せられている。所有者所在不明の場合は、地域の親戚等を訪ね連絡をお願いしている。

ほかに「ボランティア活動中の傷害保険、賠償保険の加入について」

を質問しました。

自治会要望等への集中対応とは

町長 予算を増額し、ていねいに応えていく



成田 光一 議員

成田 平成29年度当初予算編成方針の重点事業に、住民生活環境施設の整備「自治会要望等への集中対応」とある。

これまではどのような対応をしてきたのか。そして、新年度はどのような対応をしていく考えなのか。

町長 合併当初は、厳しい財政状況の中で効果的な対応を図る観点から、自治会要望を軽微なものから莫大な費用のかかるものまで、一斉に提出していただき、ある程度出そろった段階で仕分けをし、内容を吟味し、予算化し、実施することとしていた。

近年は自治会長会議を開催し、また、財政も若干よくなってきたこともあり、要望に対する町の対応を変えてきている。

まず、要望の9割以上が建設課所管の道路改良や側溝整備のため、優先順位をつけて、年間80000万円の町単独予算で対応している。なお、今年度は20カ所ほどの改修を行ったが、新年度は1億2000万円くらいまで増額して要望に応えたいと考えている。

各課にまたがる内容は、企画政策課が調整を図って回答をしている。

回答は、「できるとすればいつごろまでに、どのようにと」、「迅速・丁寧」を心がけているが、必ずしもそのようにいかない場合もあることをご理解いただきたい。

町独自の免許自主返納支援サービス

町長 他市町村の状況も考慮し検討する

成田 最近、高齢者による自動車運転事故が増えている。地方での移動手段として、自家用車は必要不可欠なものである。自主

返納者が増えている。運転免許返納者には「運転経歴証明書」を発行して、タクシーやバ

秋田県警の運転免許自主返納高齢者割引制度
※詳細は秋田県警ホームページをご覧ください。
(<http://www.police.pref.akita.jp/kenkei/osirase/menkyohennou-waribiki.html>)

的な運転免許証の返納が取り沙汰されたりもしているが、三種町の状況はどうか。

また、自主返納支援サービスを町独自に行う考えは、

町長 能代警察署管内における平成28年1月から11月までの運転免許証の返納者は172人であり、そのうち三種町では44人である。

県内では、運転免許証返納者には「運転経歴証明書」を発行して、タクシーやバス等を利用割引できる「運転免許自主返納高齢者割引制度」を設けている。県内で独自の追加支援サービスを実施しているのは3市にとどまっているため、他市町村の状況等も考慮しながら検討する必要があると考えている。

ほかに「雇用につながる地域経済の活性化支援等について」を質問しました。

空き家対策推進への対応は

町長 協議会を組織し、空き家対策計画を作成する



大澤 和雄 議員

大澤 平成27年に国は、空き家等対策の推進に関する特別措置法を施行した。

適切な管理が行われていない空き家等は、防災や衛生、景観などの面で、地域住民の生活環境に深刻な影響を及ぼしている。その対応として、この空き家対策特別措置法は、地域住民の生命・身体、または財産を保護するとともに、その生活環境の保全を図り、あわせて空き家等の活用を促進することを目的としている。市町村においては、空き家等の対策計画の作成等、必要な措置を適切に講ずるよう求められているが、これらの対応は。

町長 空き家対策特別措置法の施行により、特定空き家にかかわらず、す

べての空き家を対象に施策を推進できるようになった。ただし、実施にあたっては、空き家対策計画の策定及び空き家対策計画を実施する協議会を組織することが必要である。

本町では、危険な特定空き家の対処を優先してきたので、今後は、早期に協議会を組織し、空き家対策計画の作成に取りかかりたい。なお、特定空き家における解体実績は、平成26年度が8件、平成27年度が8件、平成28年度は11月末現在で3件となっている。

雇用対策(創出)は

町長 町内外の情報を収集し、改善・対応していく

大澤 能代・山本管内の雇用状況は、依然として厳しい状態にある。町民からは、今まで以上に雇用確保に力を入れてほしいという要望が多いが、具体的な対応は。

また、「三種町まちひと・

しごと総合戦略」では、新規雇用者を5年間で250人創出するとあるが、実現可能なのか。

町長 能代・山本管内の雇用・求人状況は、ハローワークが11月29日に発表した動向情報では、有効求人倍率が1.37倍と高く、求人数が多くなっている。また、本町の総合戦略の基本目標である5年間で250人の新規雇用創出に

ついては、地域雇用創出推進事業による新規雇用者数が年間30人前後であり、また、その他の事業による雇用も期待できるので、実現可能とみている。

雇用対策の課題は、求人数はあるが、雇用に結びつかない「雇用のミスマッチ」だと考えている。町内外の情報収集を実施し、改善・対応策を検討していきたい。



求人状況は上向いているが…

就学援助制度の改善・拡充を

教育長 3月に支給し、拡充も検討する



伊藤 千作 議員

伊藤 就学援助制度の入学準備金は、入学後の5月に支給されているが、入学前の2月から3月の間に支給するよう改善すべきである。

新入学の子供を持つ親にとって、入学前には学生服やかばんなど何かと費用がかかる。しかし、これらの学用品費は入学後に支給されるので、入学前支給は、援助世帯にとって切実な願いである。

この件は、3月定例会でも一般質問で取り上げたが、今後、最善の対応ができるように検討を重ねていくとのことだった。どのような検討をされたのか。

他自治体でも改善の動きが広がっている。群馬県太田市では、入学準備金の支給時期を3月に繰り上げて、支給額も新小学1

年生は2万470円から4万円に、新中学1年生は2万3550円から5万円に増額する。

三種町も入学前支給の実施と支給額倍増等を検討したらどうか。

教育長

平成29年度分の就学援助費申請については、これまでの事務日程を繰り上げる。1月頃までに申請書をいただいで、2月中に教育委員会の審査を行い、認定された支給者の新入学児童生徒学用品分、つまり入学準備金を入学前の3月に支給できるように準備を進めていく。

なお、支給額は、新小学1年生には2万470円、新中学1年生には2万3550円である。

今後さらに、PTA会費や児童会・生徒会費、クラブ活動費などの支給ができるよう検討する。

除排雪支援事業の拡充を

町長 他町村の事例を参考に、鋭意検討する

伊藤

高齢者世帯に対する除排雪支援事業に、屋根の雪おろしの実施を検討したらどうか。

また、シルバー人材センターに委託するのではなく、別組織を作って活用を考えたらどうか。

町長

屋根の雪おろしについては、これまでも協議した経緯もあるが、シルバー人材センターでは、作業の安全性を考慮し、屋根での作業は引き受けないということ、現在のような除排雪となっている。

今後は、町内の状況をよく調査した上で、他町村の事例も参考にしながら、雪おろしへの対応について鋭意検討する。



1/17 上岩川地区

請願

陳情

審査報告

陳情5件は次のとおり付託委員会で審査され、本会議で採択と決定しました。

陳情 件名	陳情者氏名	付託委員会	結果
地域の実情に応じた医療提供体制の確保を求める意見書を求める陳情書	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 渋谷 一	教育民生常任委員会	採 択
安全・安心の医療・介護の実現と夜勤交替制労働の改善を求める意見書を求める陳情	秋田県医療労働組合連合会 執行委員長 渋谷 一	教育民生常任委員会	採 択
介護保険の給付縮小・負担増を中止し、充実を求める国への意見書提出の陳情	秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺 淳	教育民生常任委員会	採 択
「高額医療費」「後期高齢者の窓口負担」の見直しにあたり、現行制度の継続を求める国への意見書の提出の陳情	秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺 淳 秋田県保険医協会 会長 草薨 芳明	教育民生常任委員会	採 択
若い人も高齢者も安心できる年金制度改善と年金積立金の株式運用の見直しを求める国への意見書提出の陳情	秋田県社会保障推進協議会 会長 渡辺 淳 秋田県保険医協会 会長 草薨 芳明	教育民生常任委員会	採 択

全国町村議会広報研修会



全国の町村議員が参加した議会広報研修会

10月25日、東京のシェーンバツハ・サボーにおいて、「平成28年度町村議会広報研修会」が開催され、三種町議会広報編集特別委員と事務局職員の6人が参加した。研修会では、「分かりやすく、伝わる広報誌の表記」赤羽博之氏、「読まれて、伝わる議会広報誌」豊田健一氏、「第30回広報コンクール紙面クリニック」芳野政明氏が、それぞれ議会広報編集にあたっての基本的な技術や留意点について講演した。

特に、編集に当たっての企画・構成・言語・文章・写真等の編集技術をわかりやすく解説され、有意義な研修となった。

大澤 和雄 記

地区住民の不安解消に努めるべきだ

産建委員会 調査報告



地権者から豪雨被害を聴取

牛沢地区については、山の一部が崩れ土砂が民家に迫った現場を確認した。町道の土砂の除去作業は既に終了しており、また、崩落部分の対応は、関係機関と連絡調整済みであった。今後とも地区住民の不安解消に努めるべきと考える。

鹿渡新屋敷地内の床下浸水については、上流の農業用排水路から溢れ出た水が、大量に流れたことによる。被害が常態化していることから、町及び関係団体が対応策を検討する必要があると考える。

10月8日豪雨災害の被災状況調査

- 産業建設常任委員会は、次のとおり所管事務調査を実施した。
- 10月11日 10月8日豪雨災害の被災状況調査
- 11月14日 砂丘温泉ゆめろん改修の成果確認
- 11月25日 地熱水を活用した高収益園芸作物の実証事業の行政視察



ゆめろん改修の成果確認

砂丘温泉ゆめろん改修の成果確認

改修後の浴室場所が、食堂及び休憩室前を通って行くため、食堂等の利用者が増加し、プラス効果に働いているとの説明であった。しかし、当初から指摘されていた露天風呂については、冬場対策が講じられていないので、早急に対応策を検討する必要があると考える。



湯沢市にて地熱水の利活用を学ぶ

地熱水を活用した高収益園芸作物の実証事業

県内でも有数の豪雪地帯である湯沢市皆瀬地区は、冬期間における農作物の栽培は簡単ではないが、豊富な地熱水を利用し水耕ミツバ栽培を年8回程収穫している。実証施設を18棟（1棟約100坪）有している地熱水利用組合を視察した。地熱水の利用料金（ハウス使用含む）は、1月当たり1棟3000円程度で非常に低料金設定となっているので、栽培者は安心して取り組むとの説明であった。三種町においても、地熱水を最大限活用し、地域における新たな農業振興策を進めるべきと考える。

第3回 町民と議会との懇談会報告

人口減少対策をテーマに議論



金陵の館で意見交換

三種町議会による「町民と議会との懇談会」を、11月15日から17日までの3日間、町内9カ所で開催しました。

23人の町民から参加いただき、町の未来について議論を交わしました。

ここでは、懇談会の中で出された意見や要望に対する議会と町からの回答について報告します。

人口減少対策

町民 農地基盤整備が行われているが、大規模になると農業従事者が少なくて済む。結果的に失業者が増えるのではないか。

議会 規模を拡大すると機械も大型化し、就農者が減るとは思われるが、新規就農者が出てくるということも考えられる。

町民 我々大人は、現在の子どもたちが何を考えているのかをもっと知るべきだと思う。それによって、町の施策をどうすればよいのか見えてくるのではないか。机上の考えだけでは答えが見えてこないと思う。

議会 指摘のとおり、具体的な施策がまだ見えてこない。私たちもこのことをしっかりと確認しておく必要があると思う。

町民 人口減少問題について、議員はどう思っているのか。

議会 総合戦略にあるような政策を立てながら、少し

ずつでも人口減少に歯止めを掛けるようにしなければいけないと考えているが、なかなか妙案がないのが現状だ。

町民 若者の定着ができていないのが、企業誘致の話はあるのか。

議会 広域的には誘致活動をしているが、今は既存企業へ雇用を増やす施策が中心になっている。

町民 官公庁をもってくるとか、女性刑務所を誘致するとか思い切ったことをしなければ、都会からの移住くらいでは効果はないのではないか。町では、人口減少問題をどう考えているのか。

議会 人口減少対策は非常に難しい問題だが、出生率を上げることが最も大きな課題と言っているのではないかと思う。

町民 地元で雇用の場が少ない。能代でもなかなか見つからず、今、秋田市に通っているが、冬は3カ月間アルバイト住まいを余儀なくさ

れている。

また、稲作だけでは資材が高く間に合わない。減反もなくなるので、その補償もなくなりコメ余りになる。今のような世の中の流れは止めようがないように思う。

議会 県の調査によると、他県に出ていく人の流出理由のうち70%が他県への就職となっている。

人口減少や職場の問題は、非常に大きな課題であり、いろいろやってはいるが、なかなか決め手がないというのが実態だ。

町民 医療費や給食費の無料化は、人口減少対策としてはあまり効果がなく、レジャー施設やショッピング施設があれば、若い人の定住につながると思う。また、若者の移住促進には、職場の確保が重要ではないか。

議会 地元で雇用の場があれば、若者が地元に残る率が高くなり、結婚の率も高くなると思うが、思うようにいかないというのが実態だ。

町民 合併前から人口減少はわかっていったこと。なぜ今なのか。

議会 平成27年度から平成31年度までの5カ年で人口減少を克服し、地方創生を成し遂げることを目標に町が定めた「まち・ひと・しごと総合戦略」に基づき、政策目標や施策の基本的方向が具体的に示されたことによる。

●結婚支援事業

町民 我々がもっと若者を引き上げることができないと今の若者は結婚の機会に恵まれないと思う。

議会 若者は結婚したいと思っているはずだ。しかし、経済面やその他いろいろなことで束縛されるのが嫌だとかの理由もあるようだ。

町民 町で選任した結婚支援員がいるようだが、おせっかいと言われる覚悟で頑張ってほしい。

議会 もっと予算を増額してでもイベントや出会いの機会を増やすべきだ。専

門の部署を設けて支援活動をするくらいの考えが必要だ。今の町の婚活支援体制では、まだ施策的に不足していると思う。

町民 今は、プライバシーの関係で簡単に結婚話を切り出せないような時代になっている。

議会 昔は青年会があったて、その中で結婚をする人も相当数いたものだが、今の若い人たちには、地域の中で自然な出会いの場が少ないようだ。

町民 町で支援員を任命したようだが、以前にも同じようなことをやって、うまくいかなかったように思っている。支援員が町を頼らずに独自に活動できる体制を作ってはどうか。

議会 支援員が活動する上では、情報の共有や集約が必要であり、ある程度の行政関与はやむを得ない。

町民 仕事がなく人口減少になっているのは事実だが、仕事に就いている人達でも結婚をしていない人が

多いように思う。

議会 確かにそのような人は多いが、その人たちに結婚話を切り出しにくい現実があるのではないかと。

町民 女性には、結婚はしたいが機会がない、という人がいる。そこに誰かが入って世話をすべきなのではないか。

議会 確かに、きつかけを作ってやる世話人は必要だと思う。

町民 これまで結婚支援員の会議は何回開かれたのか。

議会 今年度は、まだ1回しか行われていないが、個々に地域で活動をしているようだ。

町民 支援員は、町からの依頼に基づいて自治会が推薦し、町が選任するものだから、各自治会から推薦された支援員は相当の人数になるはずだが、18人は少ないのではないかと。

選任されなかった人に対しては、推薦した自治会としては本人に申し訳ない気

持ちを持っていてと思う。町はもう少しそのような現実を踏まえた考えを持ってほしい。

※広報編集委員会で調べたところ、各自治会に推薦を依頼したが、推薦された委員は12人であった。

●クアオルト推進事業

町民 クアオルトには、他の地域からも参加している。50代や退職した人が多いようだ。ただ、入浴無料券とか何らかのサービス提

供がないと参加者が集まらないような感じがする。県からの補助が終了しても継続できるのだろうか。
議会 町民の健康寿命延伸のための事業ではあるが、今後の展開については私たちも注視していく。



雪道でもクアオルトウォーキング

● 新元気づくり
支援事業

町民 この事業は、その後の追跡調査や途中での指導などを行うべきではないか。

議会 その通りであり、見直しが必要だと思う。

町民 鶴川地区で補助を受けて葉草を栽培しているよ。うだが、どんな状況か。

議会 まだ、自立するまでは至っていないようだ。

● 公共交通サービス

町民 最近、高齢者による自家用車運転事故が多くなっているが、高齢者のバス無料化などを考えるべきだ。

町回答 運転免許の自主返納に対する交通手段の確保は、現行のバスの無料化では補いきれないので、今後は、費用対効果を勘案しながら、他市町村の事例を参考にし、デマンド型（要求型）の交通等の整備を検討する。

● 空き家問題

町民 自治会費を納めているが、今は住んでいないという家が近くにある。これは、空き家と言えるか。

また、周囲に被害を与えそうな建物なので心配だ。

議会 空き家かどうかの判断は難しいところだが、「危険空き家」については町と2級建築士が判断しているとのことである。

所有者の了承を得て自治会で解体をすれば町から50万円の補助制度があるため、町へ相談してみればどうか。

町民 空き家を集会所のようにならなくてもいいか。

議会 一間だけでは対象になる制度はない。

町民 空き家を解体すると固定資産税が高くなるが、何か良い方法はないものか。

議会 確かに高くはなるが、普通の民家の場合はその額のはずである。

● 災害対策

町民 災害対策マニュアルはどうなっているのか。

議会 何度か見直しをしている。釜谷地区のように新しく避難所を作ったところなどは、当然見直しをする。

町民 災害時の指揮・命令系統はどうなっているのか。

議会 本庁に対策本部を設置して、そこから各支所へ連絡することになっている。

町民 災害体制が組織的に機能していないと思う。今回の行政のやり方では、落ち度があったことは間違いないと思う。

議会 12月議会定例会で提言する。

町民 災害時には、議員に連絡はあるのか。また、出向かなくて良いのか。

議会 特別な連絡はないが、個々に対応している。また、議会としても委員会調査等を行っている。

町民 職員は動員されるのか。

議会 規模にもよるが、連絡体制はできているようだ。

町民 10月の三種川氾濫時の防災無線放送は聞こえたか。

議会 一部聞こえづらい地域があったようだ。

町民 高台に住んでいる住民も公民館への避難指示が出た。実情に合っていないと思う。

議会 当局としては、マニュアルに従って指示を出しているのだと思う。確かに実情に合っていないので、実情を踏まえた内容にすべきだ。

町民 近年、降雨時や雪解け時に川の水位が上昇している。川の堆積土砂が影響しているのではないか。自治会を通し、対策をお願いはしているが、早急に対策をとってほしい。

議会 県管理の河川であるが、人命に関わる事案であるので、町を通じて県にそ

の旨を伝えてもらう。

町回答 三種川、鶴川川、鹿渡川及び谷地の沢川については、これまでも県へ要望しており、今後も要望していく。

なお、今年の要望に対しては、緊急性の高いところから実施していくとの回答があった。

● 環境問題

町民 八竜地域の養豚場の臭いの問題をどう考えるか。

議会 町は、「住民説明会を開き地域住民の理解を得るように働きかける」としている。

町民の安全安心を守るため、当局の動きを見ながら調査していきたい。

● 農家支援

町民 農業をやりたい人に長期的支援が必要ではないか。

町回答 平成30年からの農政改革を踏まえ、農業後継者の現状把握が必要なことから、平成29年2月のアン

ケート調査後に、農政改革に対応できるような新たな施策の検討やシニア世代の農業参入を含めた中・長期の支援策を検討する。
また、複合経営に取り組む方や技術指導を受けたい方々への支援や、地域で取り組む複合経営支援事業などを平成29年度も継続していきたい。

● 林道整備

町民 林道の整備に交付金
が来ていると思うので、それを使ってももかわ百川林道の除草をしてほしい。

町回答 生活路線に関しては毎年草刈り等を行っているため、場所や時期についての要望があれば、可能な限り対応したいので、琴丘総合支所に連絡をいただきたい。

● せいぶ館の管理

町民 せいぶ館の鍵が役場の管理になってから地域活動が衰退している。せいぶ館に指定管理制度を導入す

るように、自治会長会議で強力に促してはどうか。

議会 鍵が役場管理となつたのは、集落側で指定管理に難色を示したことによるものであるが、もっと集落側に指定管理制度への理解を得てもらう努力が必要だと思ふ。

● 企業誘致活動

町民 誘致企業の条件はどんなになっているのか。

議会 新規雇用者数が、10名から5名に緩和された。

町民 ふるさと会など、いろんな場で情報を得るようにはどうするか。

議会 町長もアンテナを高くして頑張っているようだ。

● 観光資源開発

町民 以前、浜から古木が出土した。調べたら文化的に価値のあることが分かった。三種町内にもっとそのようなものがあるのだとしたら、観光資源として整備をしてはどうか。

議会 良い意見だと思ふ。今後検討していきたい。

● CCS事業

町民 CCS事業誘致のため、専属の課を設けたらどうか。

町回答 11月にCCS誘致協議会を設立した。CCS事業は企業誘致であるので、商工観光交流課を窓口とし、要望活動や勉強会等を実施していく。今後は、誘致に対する町民の気運を高めていきたい。



CCSプラント誘致の要望活動(12/21 経産省東北経済産業局)

● 河川整備

町民 川の氾濫の原因になるので、百川の柳や雑木を切ってもらいたい。

町回答 現地を確認して対応したいので、建設課に連絡をいただきたい。

● 学校関係

町民 学校の部活などの行事が多くて、休日の地域行事に子供の参加が少なく、当然親の参加も少ない。休日に地域の行事があるときは、学校の行事を減らせないものか。

議会 難しい問題だ。学校の理解が必要になる。

町民 学校のスポーツ大会の全国大会はなくなった方がよいと思う。全国大会に日程を合わせて地区大会が行われるので、多くの生徒は6月頃で部活から離れてしまう。

また、部活練習で合併してチームを作っているとこるは、町のバスで送迎ができないのか。

町回答 全国大会については日本中学校体育連盟が開催するものであり、それに合わせて、東北大会、全県大会が開催される。それぞれのチームレベルや最終目標は違うので、教育委員会が判断すべきものではないと考える。

町バス運行規定では、公式試合では使用できるが、練習や練習試合では使用できないことになっている。また、スクールバスの利用については、スポーツ少年団の活動時間が、児童・生徒の送迎時間と重なるため、調整がつかない状況である。

● 三種町 誕生10周年

町民 三種町が合併して10年になるが、どう感じているか。

議会 町は、旧3町のバランスを見ながら行政を進めていると思うが、まだ、細かいところに目配りができていないように思う。

今後、住民サービスが低下しないよう努めていく。

● 住民監査請求

町民 住民監査請求が2度も却下され不受理となったが納得がいけない。この問題を出席している議員はどう思っているか。

● 議会

○今回は請求を受理し、その上で違法かどうかを判断すべきであった。

○受理すべきだったと思うが、監査委員の却下通知が既にでているので、監査のやり直しは難しいと思う。

○受理しなかったのはよくないと思う。ただ、町職員の違法行為とまでは言えないと思う。

● 議員費用弁償

町民 議会で会議とかあったときには、日当はでているのか。

議会 日当はなく、弁当代も自費である。

また、政務活動費もない。

● 町民と議会との懇談会

町民 今回のようにテーマを絞ったのが参加者不足の要因になったのでは。

周知方法に不備があったため参加率が悪いのではないか。

● 議会

どのような要因が考えられるのかを検討課題としたい。

● その他の意見等

○再雇用制度は、廃止すべきだ。

○定年になったらすぐに年金をもらえるようにすべきだ。

○地域の意見をもっと吸い上げることができるように議員の定数を増やしても良いと思う。

○介護保険料が年金から引かれるのはおかしい。

議会を傍聴してみませんか？



次回の定例会は、3月上旬を予定しています。



12月定例会の傍聴者数は、5名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしております。

故人の御功績を偲び

謹んで哀悼の意を表します

故 石 井 秀 基 議員

○生年月日 昭和32年1月20日
○議員略歴 平成26年7月4日〜平成28年11月11日

三種町議会議員
・総務常任委員
・議会広報編集特別委員

編集後記



大雪と言われていましたが、今年は穏やかな朝日を拝める元旦でした。

私事ですが、久しぶりに議会広報編集特別委員となり、この原稿は、膝の治療のため、病院のベッドの上で書いています。クリスマスも正月も返上し、リハビリに専念している毎日です。昨年は三種町合併10周年とのことで、諸々の催し物がありました。特に、町民

祭は天候に恵まれ、町民の方々もたくさん見に来てくださり、大盛会に終わることができました。

第3回町民と議会との懇談会が開催されましたが、どこの地区でも出席者が少なく残念な結果となりましたこと、様々な問題が残ったと思われま

す。これからますます寒くなる時期ですが、あまり大雪にならないことを願っています。

後藤栄美子 記